

大 学 史 研 究 通 信

第 84 号 2016 年 1 月 27 日 (水)

大学史研究会

第 84 号の内容 : 第 38 回大学史研究会セミナー報告・2015 年度総会報告・2015 年度会計報告・会員新刊ニュース・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

第 38 回大学史研究セミナー報告

2015 年 11 月 21 日 (土)、22 日 (日)、南山大学名古屋キャンパスにおいて、第 38 回大学史研究セミナーを開催いたしました。当日の参加者は、2 日合わせて 43 名でした。出席されたみなさまには、厚くお礼申し上げます。

1 日目は、大学史研究会創設者のお一人である中山茂先生の追悼企画といたしまして、3 名の先生方にご講演をいただきました。吉岡齊先生には「戦後日本科学技術社会史と中山茂」、塚原修一先生には「中山茂と日本の大学史研究」、成定薫先生には「中山茂の被爆体験と原爆文学論」と題して、中山先生の業績と研究の道筋等について、それぞれ詳細な資料をもとにお話しいただきました。ご講演の詳細については次号掲載予定の「セミナー参加記」に譲るといたしまして、当日は中山宗子様 (中山先生の奥様) と、針谷順子様 (「中山茂著作集」の編集、出版、編集工房球代表) にご臨席いただきました。中山宗子様には、講演内容に関わった質問にもお答えいただき、中山茂先生のお人柄に、あらためて触れることができました。

2 日目の自由研究発表では、5 名の会員から発表がありました。午前には内山弘美会員から「日本の大学の環境教育の歴史－高等教育論と科学の制度化の視点から－」、福留東土会員 (東京大学) から「ローレンス・ローウェルによるハーバード・カレッジ改革」、坂本辰朗会員 (創価大学) から「アメリカ合衆国におけるナショナル・リサーチ・フェロー制度の創設」の研究発表がありました。昼食とレーモンド建築ツアーを挟んで、午後には、松浦正博会員 (広島女学院大学) による「中世パリ大学学芸学部の試験規程をめぐって」、荒木康彦会員 (近畿大学) による「世耕弘一のドイツ留学 (1923-1927 年) について－主に日本国内採取の史料に依拠して－」、潮木守一会員による「出版革命と大学改革－19 世紀初頭のドイツ」の研究発表が行われました。今回は例年以上に発表者が多く、質疑応答も活発に行われ、大変有意義なセミナーとなりました。

末筆となりましたが、今回のセミナーでは会場の提供と設営について五島敦子会員 (事務局)、林雅代会員に全面的にお世話いただきました。あらためて感謝申し上げます。

(事務局セミナー担当: 深野政之)

開催校からの御礼と開催校企画報告

五島敦子 (南山大学短期大学部)

秋深まるなか、好天にも恵まれ、セミナーを無事終えることが出来ました。シンポジウムでは、中山茂先生の追悼企画という貴重な機会を頂戴し、翌日の自由研究発表では、例年にも増して多くのご発表をいただきました。昨年の九州大学に続く地方都市での開催でしたが、両日ともに多くの方々に参加いただきまして、誠にありがとうございました。パネリストをお務めくださった吉岡先生、塚原先生、成定薫先生、ならびに、自由研究発表の皆様には、重ねて御礼申し上げます。

今回は、開催校企画として、公開プレ企画「若手研究者の集い」と「レーモンド建築ツア

一」を行いましたので、以下に詳細を報告させていただきます。戦後 70 年という節目の年に、若い研究者の方々が中山先生の偉業に触れる機会を提供できたこと、また、私自身、事務局員として本研究会セミナーを開催するという使命を果たせたことに、改めて感謝いたします。なお、本セミナー開催にあたっては、南山大学学会開催援助金の助成を受けたことを報告いたします。

公開プレ企画「若手研究者の集い」

「若手研究者の集い」は、1 日目午前中に、非会員の方も気軽に参加いただけるように、公開企画として開催しました。研究動向や研究関心を相互に紹介することを通じて、大学史研究に関心をもつ若手研究者の交流を図る企画で、25 名の参加がありました。

報告者は、宮里翔大（桜美林大学大学院）、原圭寛（慶應義塾大学大学院）、蝶慎一（東京大学大学院）、山本尚史（長崎女子短期大学）、戸村理（國學院大学）という 5 人の新進気鋭の方々でした。司会は、五島敦子会員、井上美香子会員が務めました。報告内容は、奨学金制度、イメール報告、厚生補導、国際交流、経営・財務と多様でしたが、総じて、学生研究や学生支援への関心が高いように思われました。2000 年代に学生生活を送った若い方の感性でしょうか。新しい時代を感じる会となり、活発に質疑が行われました。終了後、今後こうした機会を継続して持ちたいとの声も聞かれました。なお、この企画は、JSPS 科研費 15K04335 の助成を受けたことを申し添えます。

レーモンド建築ツアー

アントニン・レーモンドの建築をめぐるキャンパス・ツアーは、2 日目昼食後、南山大学高橋洋子先生を講師に招き、31 名の参加がありました。南山学園アーカイブズ提供の『南山学園資料集 9 南山学園のレーモンド建築』と林雅代会員による特製マップを片手に、正門、テラコッタ色の本部棟の造り、ペッセスクエア、フレスコ画のある G 棟、曲線のフォルムが美しい体育館まで、約 1 時間の散策をしました。もう少し時間があれば、神言神学院もご案内したかったところです。階段に差し込む光によって映し出される十字架や図書館の手すりの洒落た装飾など、私自身も新たな発見がありました。短い休憩時間にもかかわらず、多くの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

2015 年度総会報告

第 38 回大学史研究会セミナーに引き続き、2015 年度の総会が開催されましたので、その議事録を掲載いたします。

大学史研究会 2015 年度総会議事録

2015 年 11 月 21 日 於 南山大学 R 棟 4 階 49 号室

文責（セミナー担当：井上美香子）

1. 1. 事業報告

岡田局員より、本年度はニュースレター『大学史研究通信』を 5 号 80, 81, 82, 83, 84 号) 刊行するとともに、第 38 回大学史研究セミナーを南山大学で開催したとの報告があった。

1. 2. 紀要『大学史研究』第 26 号について

岡田局員より、第 26 号の刊行に向け鋭意編集中である旨、報告があった。

1. 3. 2015 年度決算の報告・会計監査報告

会計担当の山崎局員より、決算報告が行われた。続いて監査の吉野剛弘会員より、今年度も問題なく会計業務が執行されていることが報告されたのち、決算が承認された。

2. 次年度の活動

2.1. 2016 年度予算の提案

山崎局員より来年度予算が提案されたのち、全会一致で承認された。

3. その他

- ・院生など、若手研究者が本研究会で研究発表する際の旅費等の本研究会からの補助について提案があった。
- ・次期事務局員として、山本尚史会員が紹介された。

大学史研究会 2015 年度会計報告

大学史研究会 2015 年度会計ならびに 2016 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告いたします。

* 2015 年度の収支報告

【 収入 】

2014 年度会計からの繰越金は、4,781,476 円でした。2015 年度年会費につきましては 80 名の会員より納入いただき、年会費・入会金の納入総額は、600,000 円でした。年会費の納付率自体は 66% であり、前年の 58% に比べるとやや改善されました。主たる要因は、今年度は長期未納者の納金が多かったためです。なお、昨年度も申し上げた通り、例年時期がずれて納金する方がおります。そのため、2015 年度の納付率は 66% ですが、例えば 2013 年度のを現時点で見ますと 82%、長期未納者を除くと 90% 近くになります。現時点では、年会費支払いの督促は 3 年間以上の未納者としているため、いずれは通知をする必要があると思いますが、通知は費用支出になりますので検討しています。

いずれにせよ、年会費をお納め下さった会員各位におかれましては、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も引き続き研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対するご理解ご協力をお願い申し上げます。

その他の収入としましては、『大学史研究』（紀要）の売上金、22,720 円がありました。2015 年度の総収入額としましては、5,405,196 円、前年度繰越金を除いた実収入額は、623,720 円でした。

【 支出 】

2015 年度は名簿の作成を行い、それに伴う費用として 79,903 円の支出がありました。編集委員会会議費・交通費は、9,140 円、印刷費は、21,939 円です。これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡の印刷物、あるいは、年会費納入依頼通知の印刷等に関わる経費です。

通信費の支出は、67,575 円です。これは、「大学史研究通信」の発送、年会費納入依頼通知の発送、セミナーの出欠調査ハガキや、その他宅配便等の経費です。支出増の理由は、メール便の廃止等の郵便事情の変化に伴うものです。

消耗品費・手数料は、4,233 円です。これは、事務局運営にあたっての文房具・ラベル・用紙・送金手数料等の経費にあたります。

第 37 回セミナー支出として、24,860 円になりました。主な理由としては、九州大学での開催であったため、講師の先生方への打ち合わせや交通費の支出が挙げられます。首都圏開催の場合は概ねプラス傾向になりますので、首都圏開催以外の場合の多少の赤字については問題ないと考えています。

次年度繰越は、5,197,546 円、来年度繰越金を除く総支出は 207,650 円でした。繰越金

を除く収支の差は、416,070 円のプラスとなりました。ただし、2015 年度は学会誌の出版がなかったため、学会誌出版があったことを仮定すると 15 万円程度のマイナスになります。

「2015 年度会計報告」に明記されているとおり、当該年度の会計は吉野剛弘会員に監査を依頼し、精細な監査の上会計の適正処理をご承認いただきました。御多忙のところ監査業務を賜りました吉野会員には、この場を借りてお礼申し上げます。

*** 2016 年度予算案**

大学史研究会では、次年度の予算案につきましては、事務局による基本案を総会に提示し、ここでの審議を経て、最終決定をいたしております。

例年と同様、2016 年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告いたします。

【 収入案 】

収入は、年会費と紀要売上金の 2 つになります。とりわけ、本研究会の運営経費は、年会費の納入に大きく依存しております。

年会費につきましては、前年度並みの 600,000 円を収入予定額として設定いたしました。繰り返しで恐縮ではありますが、2016 年度も会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第です。

紀要売上金は、昨年度までの売上金を参考に 30,000 円としました。このような金額を収入予定に組み込めるのは、編集委員会の方々のご尽力により売上げを伸ばしていただいていることが関わっております。この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後とも何卒よろしくようお願い申し上げます。

総収入額は 5,858,546 円、繰越金を除く総収入額は 661,000 円といたしました。

【 支出案 】

支出案は、例年の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、算出いたしました。

『大学史研究』を発行する予定になっております。その発行経費（制作・印刷・発送費の総計）を 600,000 円計上しました。

編集委員会会議費・交通費は 50,000 円、事務局会議・交通費は 40,000 円としました。

その他の諸経費も、ほぼ例年通りの額を計上しております。消耗品費・手数料は 20,000 円、謝金は 40,000 円、印刷費は 30,000 円です。通信費は 70,000 円でこれはホームページの費用も含んでいます。予備費として昨年は少なすぎるという指摘がありましたので、500,000 円を計上しております。

2015 年度から次年度への繰越金は 4,508,546 円、繰越金をのぞく総支出予算案は 1,350,000 円を予定しております。

本研究会におきましては、全体として緊縮財政をうたってはおりますものの、研究会として有益と認め得る支出につきましてはやぶさかではありません。大学史研究会の発展のため、あるいは、会員サービスのために必要な支出の要請がありました際には、事務局で検討し、それが妥当であると判断した場合には、これにお応えしていきたいと考えております。今後とも会員各位からのご提案ご教示を歓迎いたしますとともに、研究会の将来的なビジョンも併せてご検討いただければ、幸いに存じます。

以上、「2015 年度会計報告」および「2016 年度予算案」につきまして、ご質問ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

（事務局会計担当：山崎慎一）

会員新刊ニュース

パトリシア・J・ガンポート 編著、伊藤彰浩・橋本鉦市・阿曾沼明裕 監訳『高等教育の社会学』玉川大学出版部、2015年7月：伊藤彰浩（監訳・序文・1章・2章）、阿曾沼明裕（監訳・8章）、五島敦子（12章）、齋藤崇徳（7章）

編集後記

セミナー@南山大学では、林雅代会員とともに、開催校担当として充実した2日間を過ごすことができました。手羽先、天むす、エビフライなど、名古屋めしはいかがでしたでしょうか。ところで、大学史研究に従事する者の宿命ですが、私も昨年度から林会員とともに南山学園アーカイブズ展示室 (<http://www.nanzan.ac.jp/archives/tenji/>) のリニューアル・ワーキング・グループの一員として仕事をしてきました。展示室では、20世紀初頭に神言修道会と聖霊奉侍布教修道女会が日本を訪れてから、名古屋で教育事業に着手し、戦後に総合学園を整備してきた経緯をご案内しています。オープンが11月24日でしたので、今回は見ていただくことができませんでしたが、次に南山においでになるさいには、是非、お立ち寄りいただければ幸いです。

(通信担当：五島敦子)

『大学史研究通信』第84号の編集は、事務局・五島敦子が担当いたしました。

連絡先：agoshima @nanzan-u.ac.jp

『大学史研究通信』第85号は、2016年3月15日発行予定です。

大学史研究会事務局

<事務局連絡先>

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

中央大学法学部 研究室受付 岡田大士気付 大学史研究会

Tel&Fax: 042-674-3151 E-mail: daishi@home.nifty.jp

ホームページ <http://daigakushi.jp/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします

E-mail: jshshe@daigakushi.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

浅沼 薫奈（大東文化大学）

岡田 大士（中央大学）

長谷部 圭彦（早稲田大学）

山崎 慎一（桜美林大学）

井上 美香子（九州大学百年史編集室）

五島 敦子（南山大学短期大学部）

深野 政之（大阪府立大学）

山本 尚史（長崎女子短期大学）